

# 日立金属株式会社

## 2018年度第3四半期累計決算説明

### [目次]

1. 概況
2. セグメント別状況
3. 18年度業績予想の修正について

2019年1月31日

## 全体概況:前年同期比増収減益 3Q以降経営環境の急変

- 中国市場の急激な需要減少
  - ・FA・ロボット・半導体・スマホ市場の需要減少
  - ・中国自動車需要の減少
  - ・これらの需要減に対応した生産調整(操業減)等により減益

## セグメント別:3Q以降、全カンパニーで需要が想定を下回る

- 特殊鋼: 電子材(有機EL部材、LF材)→顧客在庫調整等で急減  
工具鋼→中国中心に海外需要減少
- 磁性材料: 産業機器→半導体市場等の需要減少により、大幅減少
- 素形材: 北米(Waupaca社)→採用難は対策済み(年初計画からは下振れ)  
半導体製造装置用機器→需要停滞継続
- 電線材料: FA・ロボット→受注減少傾向顕著

## 課題事業について

### 1. アルミホイール:事業撤退

- (1) 米国子会社売却契約締結(19年1月以降連結対象から除外)  
18年度3Qに事業構造改革費用29億円計上  
(4Qクロージング時に為替換算差額等数億円発生見込み)
- (2) 国内生産拠点: 2020年9月末までに生産終了決定

### 2. 耐熱鑄造部品: 18年度3Qに減損損失70億円計上

- (1) これまでの改善施策(17→18年度で調整後営業利益35億円改善見込み)  
受注絞込み(価格是正、不採算品からの撤退)  
モノづくり改革(新鑄造法等)による生産性向上
- (2) 今回の減損損失の理由  
中国・欧州向け需要の急減  
新鑄造法の顧客認定後倒し
- (3) 物量減に対応した生産・事業体制の見直し

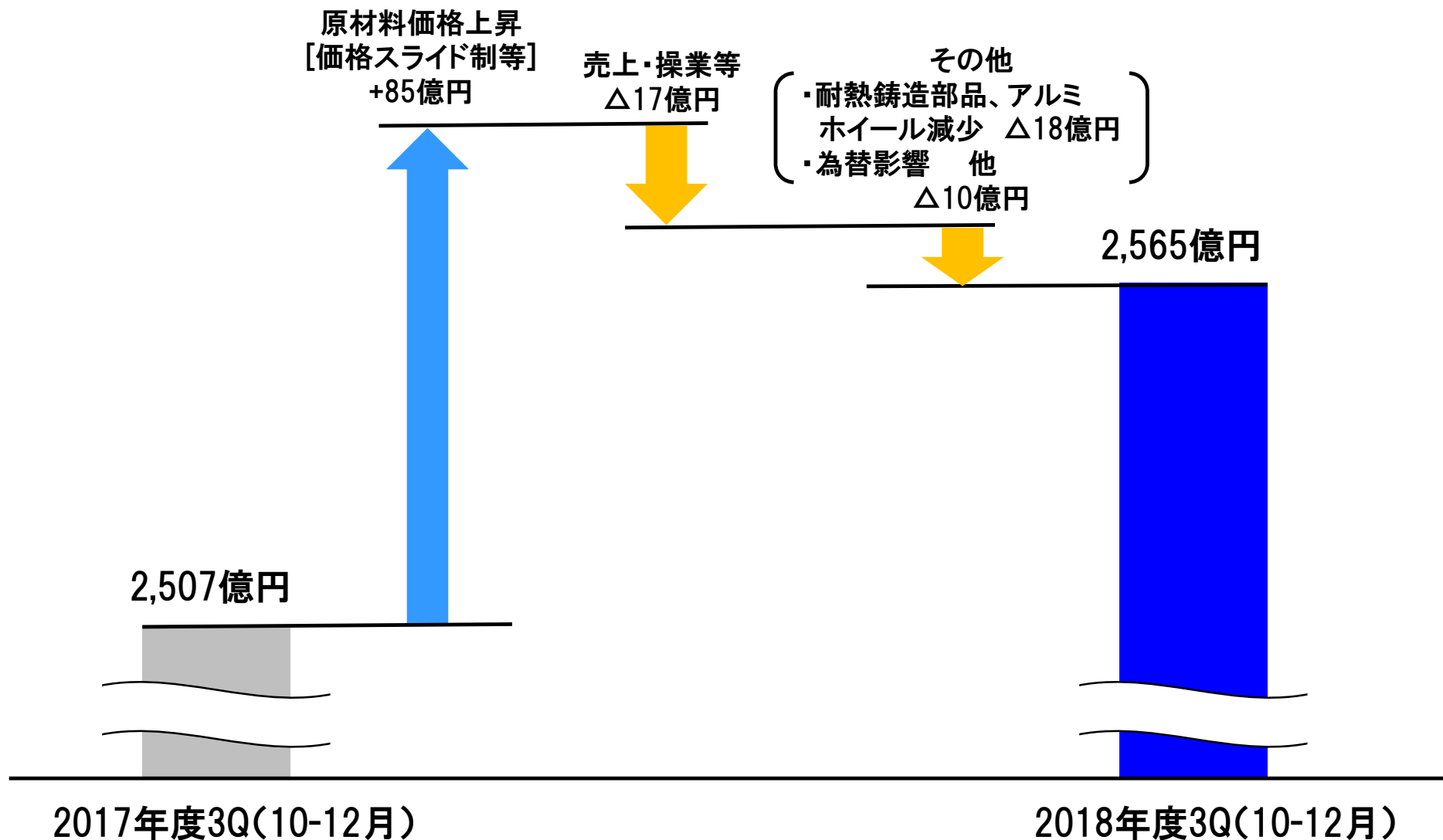
# 1-3. 2018年度第3四半期業績

金額単位: 億円 ( )は利益率	2017年度		2018年度				前年同期比		前四半期比
	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=133円 1元=17.1円	3Q累計 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	1Q(4-6月) 1\$=109円 1€=130円 1元=17.1円	2Q(7-9月) 1\$=111円 1€=130円 1元=16.4円	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=129円 1元=16.3円	3Q累計 1\$=111円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月)	3Q累計	2018年度 2Q-3Q比較
売上収益	2,507	7,331	2,597	2,593	2,565	7,755	+2%	+6%	△1%
調整後営業利益	(6.2%) 156	(6.5%) 478	(6.2%) 160	(6.6%) 171	(3.8%) 97	(5.5%) 428	△59	△50	△74
その他の収益	15	36	68	9	10	87	△5	+51	+1
その他の費用	△ 15	△ 90	△ 22	△ 28	△ 119	△ 169	△104	△79	△91
IFRS営業利益	(6.2%) 156	(5.8%) 424	(7.9%) 206	(5.9%) 152	(△0.5%) △ 12	(4.5%) 346	△168	△78	△164
EBIT	165	456	219	163	△ 12	370	△177	△86	△175
税引前四半期利益	161	441	214	158	△ 19	353	△180	△88	△177
法人所得税費用	△ 8	△ 92	△ 44	△ 48	9	△ 83	+17	+9	+57
親会社株主に帰属 する四半期利益	152	348	170	111	△ 11	270	△163	△78	△122
海外売上比率	55%	56%	57%	56%	55%	56%	0%	0%	△1%

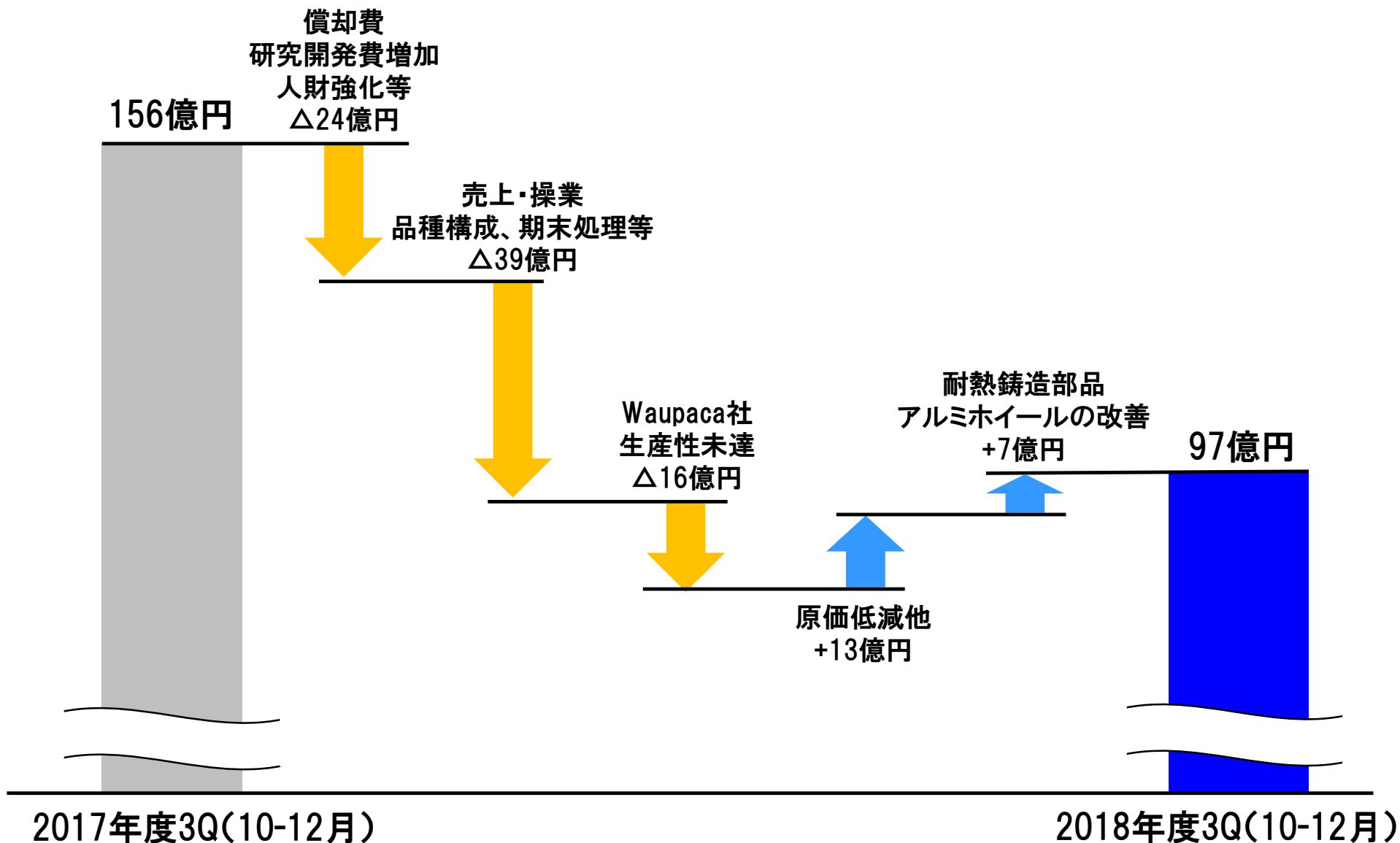
\*1 調整後営業利益 = (売上収益) - (売上原価) - (販売費及び一般管理費)

\*2 海外売上地域別構成比 18年度3Q累計: 北米30%、中国8%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%  
17年度3Q累計: 北米30%、中国8%、その他アジア12%、欧州5%、その他1%

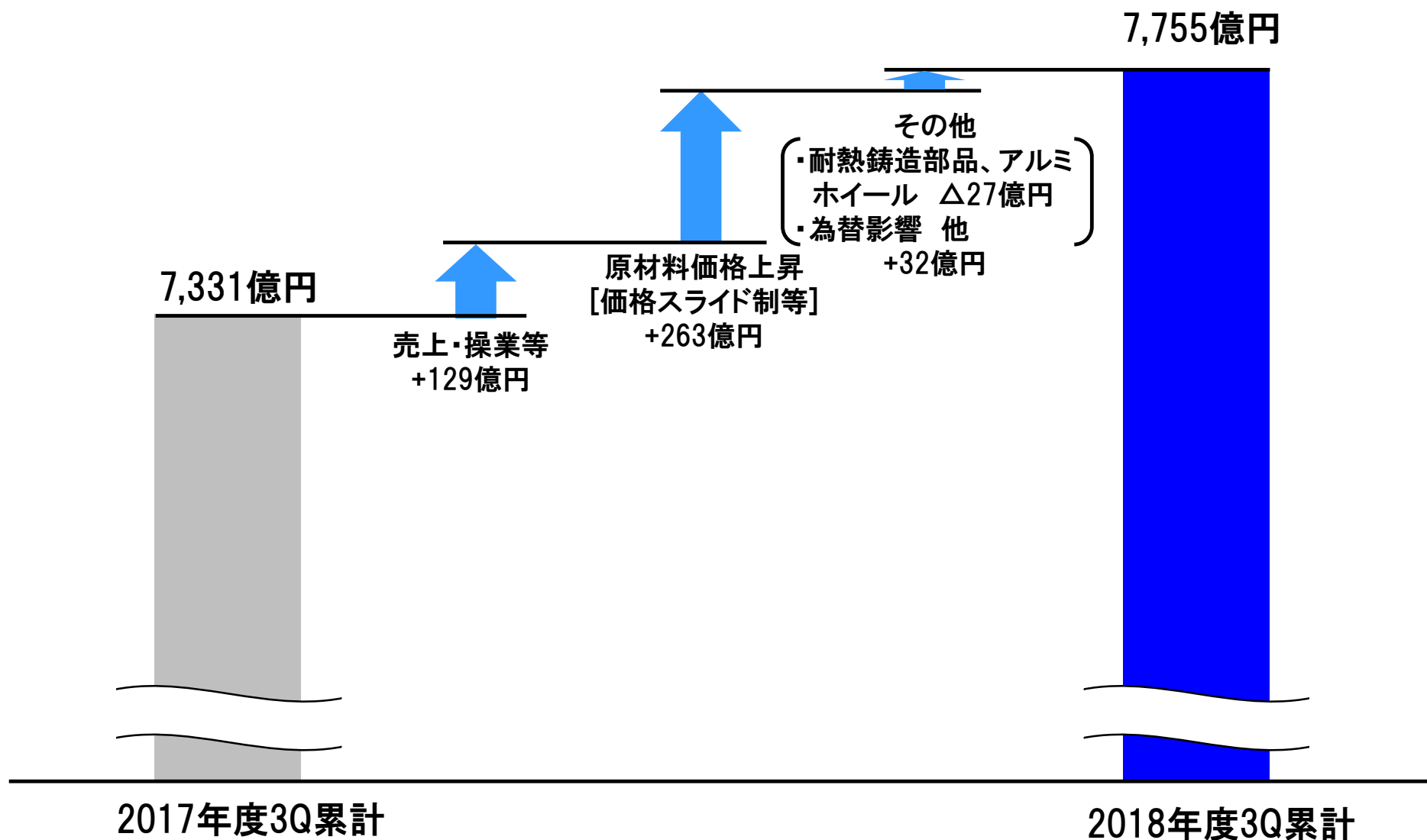
# 1-4. 売上収益の増減要因(前年同期比) 3Q(10-12月)



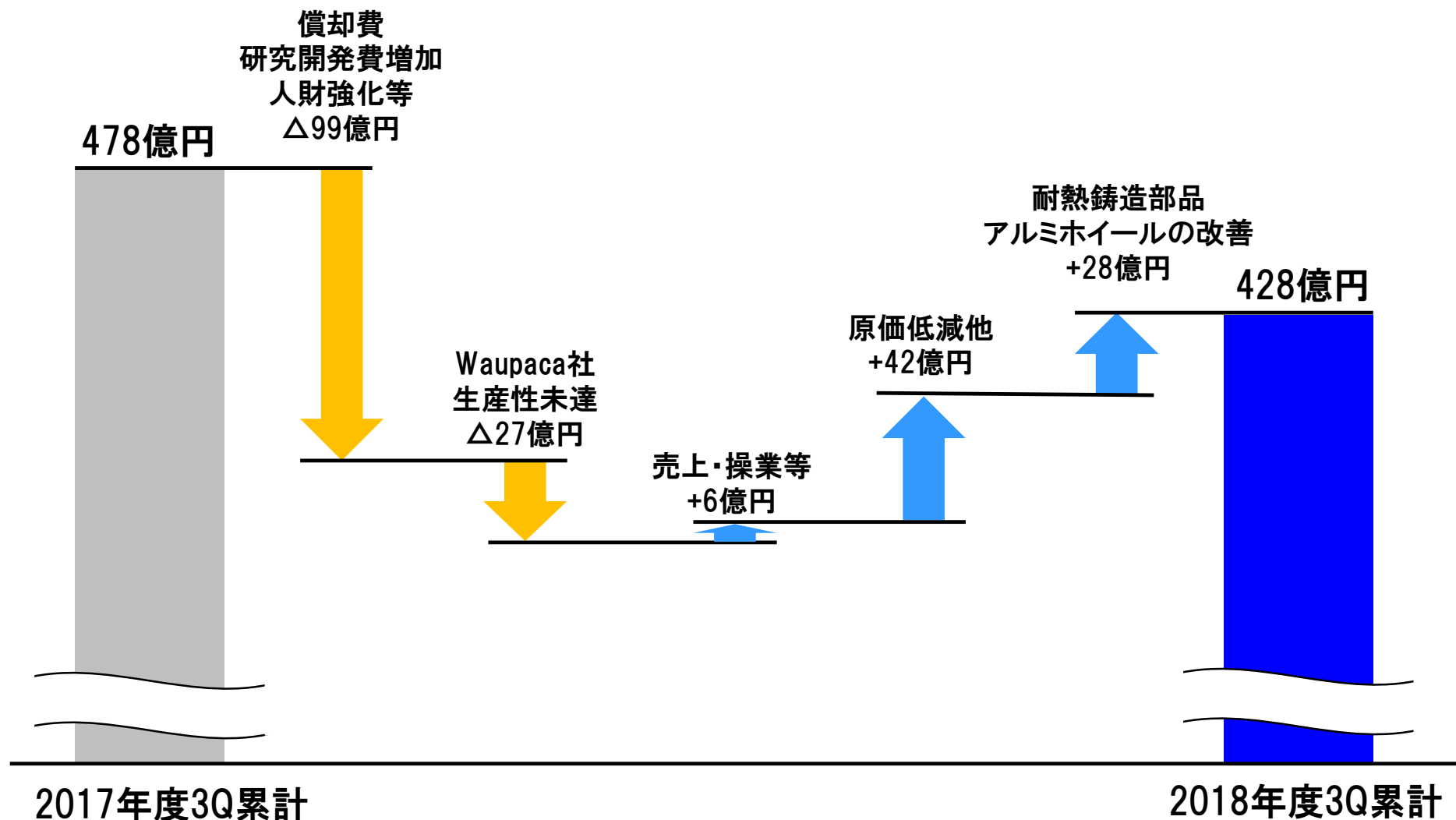
# 1-5. 調整後営業利益の増減要因(前年同期比)3Q(10-12月)



# 1-6. 売上収益の増減要因(前年同期比) 3Q累計



# 1-7. 調整後営業利益の増減要因(前年同期比) 3Q累計





# 日立金属株式会社

## 2018年度第3四半期累計決算説明

### [目次]

1. 概況
2. セグメント別状況
3. 18年度業績予想の修正について

## 2-1. 2018年度第3四半期セグメント別業績

金額単位: 億円 ( )は利益率		2017年度		2018年度		前年同期比	
		3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=133円 1元=17.1円	3Q累計 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=129円 1元=16.3円	3Q累計 1\$=111円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月)	3Q累計
特殊鋼製品	売上収益	743	2,153	763	2,306	+3%	+7%
	調整後営業利益	(9.3%) 69	(9.5%) 204	(6.2%) 47	(8.8%) 202	△22	△2
	セグメント利益	(9.2%) 68	(9.3%) 200	(5.4%) 41	(8.2%) 189	△27	△11
磁性材料	売上収益	271	792	260	844	△4%	+7%
	調整後営業利益	(7.7%) 21	(8.7%) 69	(0.4%) 1	(3.6%) 30	△20	△39
	セグメント利益	(7.4%) 20	(8.6%) 68	(0.4%) 1	(10.2%) 86	△19	+18
素形材製品	売上収益	882	2,666	917	2,761	+4%	+4%
	調整後営業利益	(2.6%) 23	(3.2%) 85	(0.5%) 5	(2.7%) 74	△18	△11
	セグメント利益	(2.0%) 18	(2.7%) 73	(△10.5%) △96	(△1.7%) △47	△114	△120
電線材料	売上収益	609	1,714	621	1,831	+2%	+7%
	調整後営業利益	(6.6%) 40	(6.4%) 109	(5.5%) 34	(5.8%) 106	△6	△3
	セグメント利益	(7.6%) 46	(4.3%) 74	(5.2%) 32	(5.5%) 101	△14	+27
その他・調整額	売上収益	2	6	4	13	—	—
	調整後営業利益	3	11	10	16	+7	+5
	セグメント利益	4	9	10	17	+6	+8
合計	売上収益	2,507	7,331	2,565	7,755	+2%	+6%
	調整後営業利益	(6.2%) 156	(6.5%) 478	(3.8%) 97	(5.5%) 428	△59	△50
	IFRS営業利益	(6.2%) 156	(5.8%) 424	(△0.5%) △12	(4.5%) 346	△168	△78

## 2-2. セグメント別業績: 特殊鋼製品(1)

### ■ 全体概況

#### 【売上収益】

原材料価格上昇の影響に加え、上期における需要増により、累計では増収

#### 【調整後営業利益】

価格是正の効果があったが、固定費の増加等により、若干の減益

### ■ 製品別状況

#### 【特殊鋼】

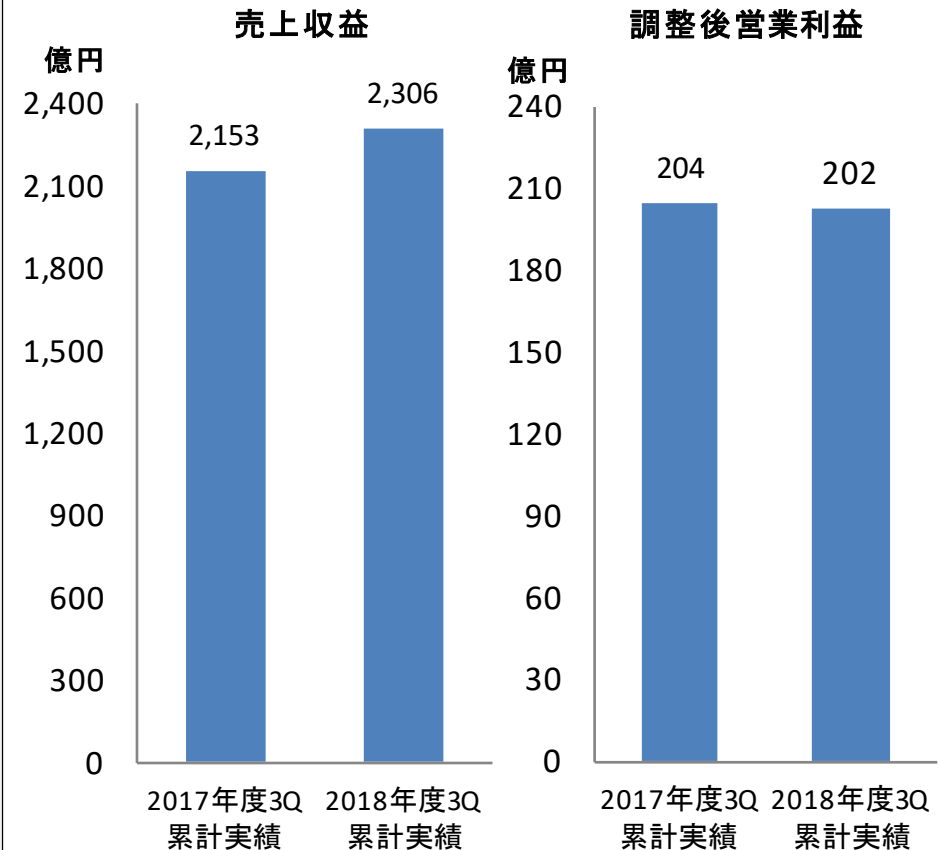
- ・工具鋼: 原材料価格上昇(価格スライド制)の影響もあり、前年同期を上回ったが、中国を中心とした海外市場で需要減
- ・産業機器材料: 自動車関連の環境親和製品が増加し、3Q累計では前年同期を上回った
- ・電子材料: 2Q累計の需要が高水準で推移したこと、電池用材料が期間を通じて順調に推移したことから、3Q累計では、前年同期を上回ったが、3Qに入り有機ELパネル関連部材および半導体パッケージ材料の需要が急減速
- ・航空機関連材料およびエネルギー関連材料:  
エネルギー関連材料は低調だが、航空機関連材料が増加し、前年同期を上回った

#### 【ロール】

各種ロールは国内、輸出ともに好調。射出成形機用部品も設備投資需要が高水準で推移し、ロール全体として前年同期と比べて増加

#### 【軟磁性部材】

アモルファス金属材料は前年同期並み、応用品が自動車向け需要の増加により堅調、全体としては前年同期を上回った



## 2-3. セグメント別業績：特殊鋼製品(2)

金額単位：億円		2017年度		2018年度		前年同期比	
		3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=133円 1元=17.1円	3Q累計 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=129円 1元=16.3円	3Q累計 1\$=111円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月)	3Q累計
特殊鋼製品	売上収益	743	2,153	763	2,306	+3%	+7%
	特殊鋼 <sup>◎</sup>	624	1,807	631	1,922	+1%	+6%
	工具鋼 <sup>□</sup>					+5%	+9%
	産業機器材料 <sup>□</sup>					△1%	+7%
	航空機・エネルギー <sup>□</sup>					+13%	+14%
	電子材料 <sup>□</sup>					△4%	+2%
	ロール <sup>◎</sup>	55	156	63	178	+15%	+14%
	軟磁性部材 <sup>◎</sup>	65	190	70	207	+8%	+9%
	調整後営業利益	69	204	47	202	△22	△2
	調整後営業利益率	9.3%	9.5%	6.2%	8.8%	△3.1%	△0.7%
セグメント利益	68	200	41	189	△27	△11	

◎ セグメント間相殺前の単純合計値

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

## 2-4. セグメント別業績:磁性材料(1)

### ■全体概況

#### 【売上収益】

三徳の連結子会社化により増収

#### 【調整後営業利益】

設備投資や原材料価格変動による費用の増加等に加え  
FA・ロボット、半導体関連需要の減少により減益

#### 【セグメント利益】

三徳の連結子会社化により発生した負ののれん発生益他  
により、増益

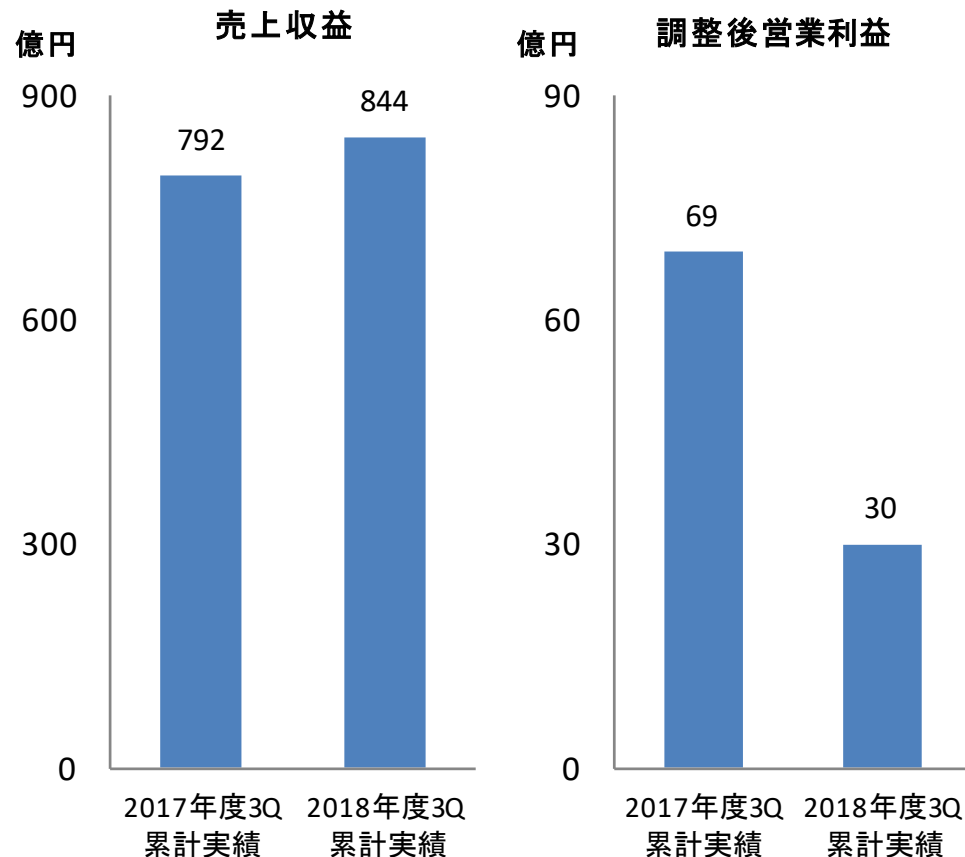
### ■製品別状況

#### 【希土類磁石】

電動パワーステアリング向け等自動車用電装部品が堅調に  
推移、加えて三徳の連結子会社化により前年同期を上回っ  
た。一方、産業機器関連は、半導体関連等の設備投資需要  
が減少し、前年同期を下回った

#### 【フェライト磁石】

家電用部品は減少したが、自動車用電装部品が  
自動車生産の伸びに伴い堅調に推移し、前年同期並み



## 2-5. セグメント別業績：磁性材料(2)

金額単位：億円		2017年度		2018年度		前年同期比	
		3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=133円 1元=17.1円	3Q累計 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=129円 1元=16.3円	3Q累計 1\$=111円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月)	3Q累計
磁性材料	売上収益	271	792	260	844	△4%	+7%
	希土類磁石(重量)					△13%	△6%
	フェライト磁石(重量)					△8%	△6%
	調整後営業利益	21	69	1	30	△20	△39
	調整後営業利益率	7.7%	8.7%	0.4%	3.6%	△7.3%	△5.1%
	セグメント利益	20	68	1	86	△19	+18

## 2-6. セグメント別業績: 素形材製品(1)

### ■ 全体概況

#### 【売上収益】

鑄鉄製品の増加に加え、原材料価格上昇(価格スライド制)の影響もあり増収

#### 【調整後営業利益】

米国の人員不足による生産性未達や半導体製造装置用機器案件延伸により減益

#### 【セグメント利益】

耐熱鑄造部品は、減損損失計上。アルミホイールは、事業撤退に伴う子会社売却決定により事業構造改革費用計上(P2 課題事業について 参照)

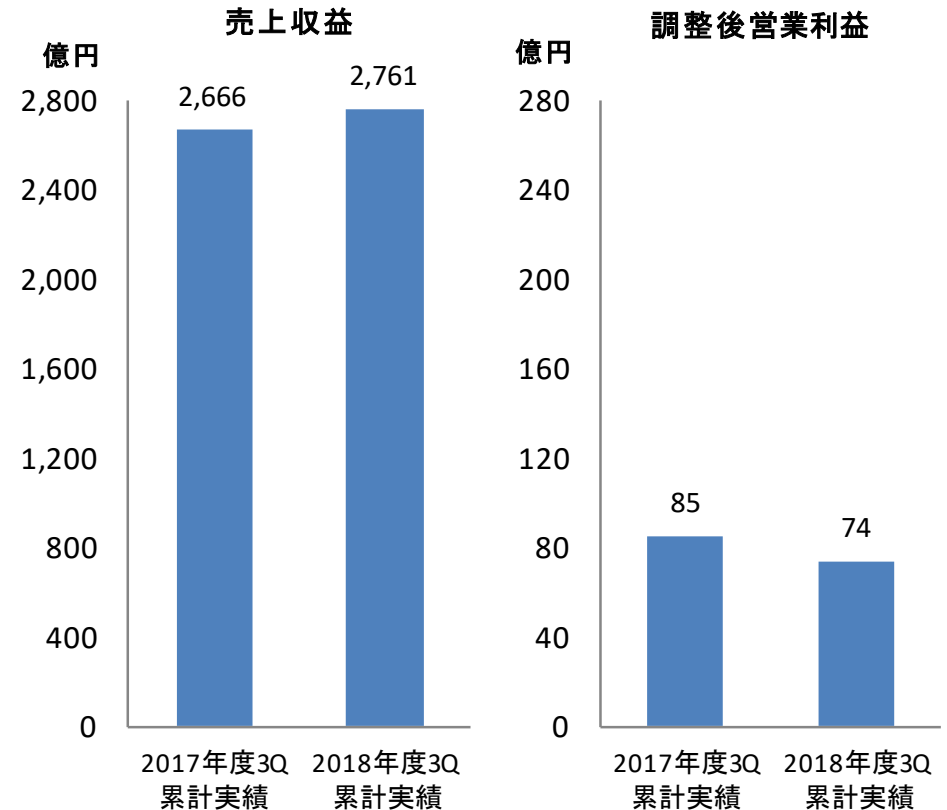
### ■ 製品別状況

#### 【自動車用鑄物】

・鑄鉄製品: [北米]商用車や農業機械・建設機械向けが伸長  
[アジア]自動車需要の増加に伴い堅調  
自動車用鑄物全体としては前年同期と比較して増加

#### 【配管機器】

・継手類: 米国は、前年同期を上回ったが、国内は、前年度末に実施した価格改定の反動影響があり、継手類全体としては前年同期を下回った  
・その他: 半導体製造装置用機器は、設備投資案件の延伸により、前年同期と比較して減少  
配管機器全体としては前年同期を下回った



## 2-7. セグメント別業績：素形材製品(2)

金額単位：億円		2017年度		2018年度		前年同期比	
		3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=133円 1元=17.1円	3Q累計 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=129円 1元=16.3円	3Q累計 1\$=111円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月)	3Q累計
素形材製品	売上収益	882	2,666	917	2,761	+4%	+4%
	自動車用鋳物 <sup>◎</sup>	739	2,276	789	2,397	+7%	+5%
	Waupaca社	471	1,495	530	1,618	+13%	+8%
	鋳鉄製品（重量）					+6%	+4%
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト <sup>®</sup> （重量）					△21%	△10%
	アルミホイール（本数）					△5%	△8%
	配管機器 <sup>◎</sup>	143	390	128	363	△10%	△7%
	調整後営業利益	23	85	5	74	△18	△11
	調整後営業利益率	2.6%	3.2%	0.5%	2.7%	△2.1%	△0.5%
	セグメント利益	18	73	△ 96	△ 47	△114	△120

◎ セグメント間相殺前の単純合計値



## 2-8. セグメント別業績:電線材料(1)

### ■全体概況

#### 【売上収益】

注力分野の増加等により、増収

#### 【調整後営業利益】

設備投資による固定費増等の影響で若干の減益

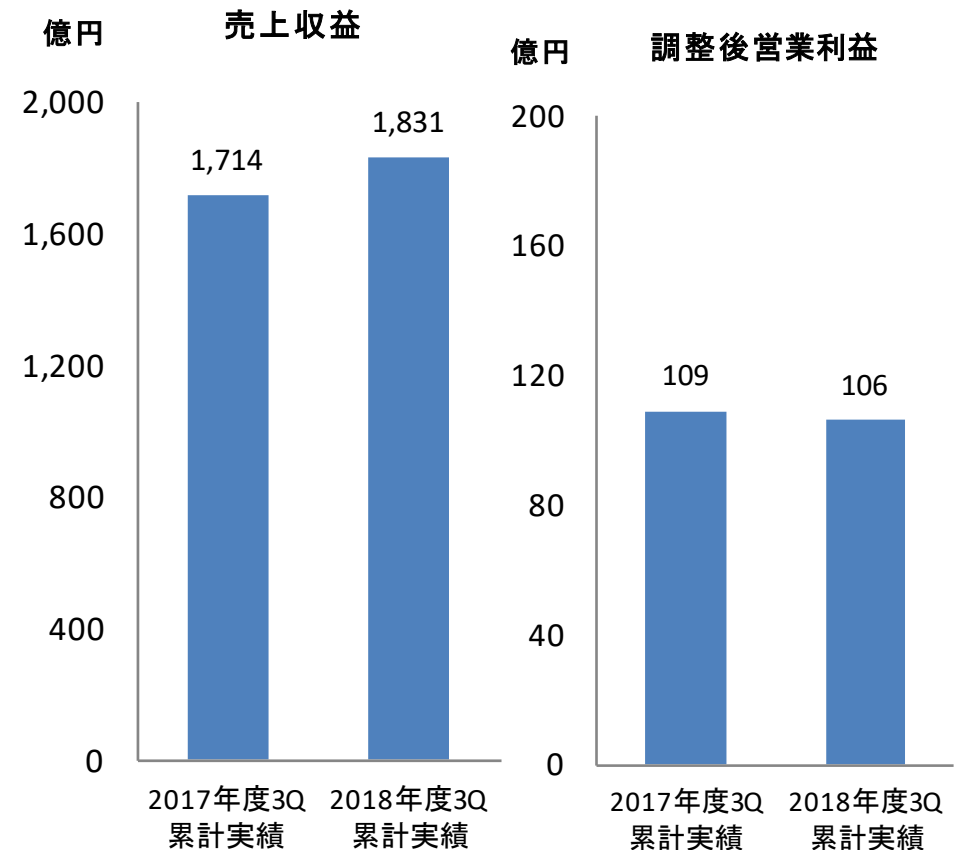
### ■製品別状況

#### 【電線】

- ・鉄道車両用電線:中国向けを中心に伸長
  - ・建設用電線:増加
  - ・巻線:自動車向けを中心に堅調
  - ・FA・ロボット:3Qに入り需要減少
- 電線全体としては3Q累計で増加したが、3Qは鉄道、FA・ロボット、巻線等需要減少

#### 【機能品】

- ・自動車用電装部品:各種センサや、電動パーキングブレーキおよびハイブリッド自動車向けのハーネスが増加、ブレーキホースも堅調
  - ・医療向け:プローブケーブル、チューブとも堅調な需要に支えられ、前年同期を上回った
- 機能品全体としては前年同期と比べて増加



## 2-9. セグメント別業績：電線材料(2)

金額単位：億円		2017年度		2018年度		前年同期比		
		3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=133円 1元=17.1円	3Q累計 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=129円 1元=16.3円	3Q累計 1\$=111円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月)	3Q累計	
電線材料	売上収益	609	1,714	621	1,831	+2%	+7%	
	注力分野	鉄道□					△5%	+10%
		医療□					+7%	+11%
		電装部品□					+12%	+14%
		FA・ロボット□					△12%	+18%
		巻線□					△10%	+5%
	調整後営業利益	40	109	34	106	△6	△3	
	調整後営業利益率	6.6%	6.4%	5.5%	5.8%	△1.1%	△0.6%	
セグメント利益	46	74	32	101	△14	+27		

□ 簡易的な方法により集計した売上収益(金額)の増減比を表示

注力分野売上割合 2017年度 3Q 42%、3Q累計 41%  
2018年度 3Q 41%、3Q累計 42%

## 2-10. 資産/負債・純資産

金額単位: 億円	2017年度末 1\$=106円 1€=131円 1元=16.9円	2018年12月末 1\$=111円 1€=127円 1元=16.1円	増減
資産合計	10,588	11,156	+568
うち売上債権及び棚卸資産	3,978	4,333	+355
負債合計	4,886	5,257	+371
うち有利子負債	1,608	2,183	+575
親会社株主持分	5,627	5,827	+200
非支配持分	75	72	△ 3
親会社株主持分比率	53.1%	52.2%	△0.9%
D/Eレシオ(倍)	0.29	0.37	+0.08

【資産】 前年度末比 568億円増加 ⇒ 棚卸資産、有形固定資産の増加等

【負債】 前年度末比 371億円増加 ⇒ 長期債務(主に普通社債)の増加等

【D/Eレシオ】 前年度末比 0.08倍上昇

## 2-11. 連結キャッシュ・フロー

金額単位: 億円	2017年度 3Q累計実績	2018年度 3Q累計実績	前年同期比
営業活動に関するキャッシュ・フロー	126	278	+152
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△ 576	△ 743	△ 167
フリー・キャッシュ・フロー	△ 450	△ 465	△ 15
コア・フリー・キャッシュ・フロー*	△ 469	△ 494	△ 25

### 【営業キャッシュ・フロー】

主に、売掛債権、棚卸資産等の運転資金改善により、前年同期比152億円の改善

### 【投資キャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得の増加(2017年度3Q累計 588億円→2018年度3Q累計 761億円)等により、前年同期比167億円の支出増加

### 【フリー・キャッシュ・フロー】

前年同期比15億円の減少

\* コア・フリー・キャッシュ・フロー = (営業活動に関するキャッシュ・フロー) - (資本的支出)

# 日立金属株式会社

## 2018年度第3四半期累計決算説明

### [目次]

1. 概況
2. セグメント別状況
3. 18年度業績予想の修正について

# 3-1. 2018年度業績予想

金額単位: 億円 ( )は利益率	2017年度 1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円
売上収益	9,883
調整後営業利益	(6.6%) 651
EBIT	489
税引前当期利益	470
親会社株主に帰属する当期利益	422

2018年度 従来予想 2Q累計実績1\$=110円 下期想定 1\$=105円	2018年度 今回予想 3Q累計実績1\$=111円 4Q想定 1\$=110円	従来予想比
10,200	10,270	+1%
(7.2%) 730	(5.6%) 580	△150
670	505	△165
645	480	△165
480	370	△110

### 業績予想の修正について

**3Q以降、事業環境が急変し、特殊鋼、磁性材料を中心に受注減**

- FA・ロボット →需要急減(短期での市場回復は見通し難い)
- 半導体・エレクトロニクス市場  
→需要急減(在庫調整により19年度後半での回復を見込む)
- 耐熱鑄造部品→中国・欧州向け需要急減  
新鑄造法の認定見込み時期後倒し
- 北米(Waupaca社)→人員不足による生産性未達  
(対策済みも3Qまでの未達影響残存)
- 自動車関連市場 →減少傾向  
(工具鋼、各種センサやハーネス等電装部品他)

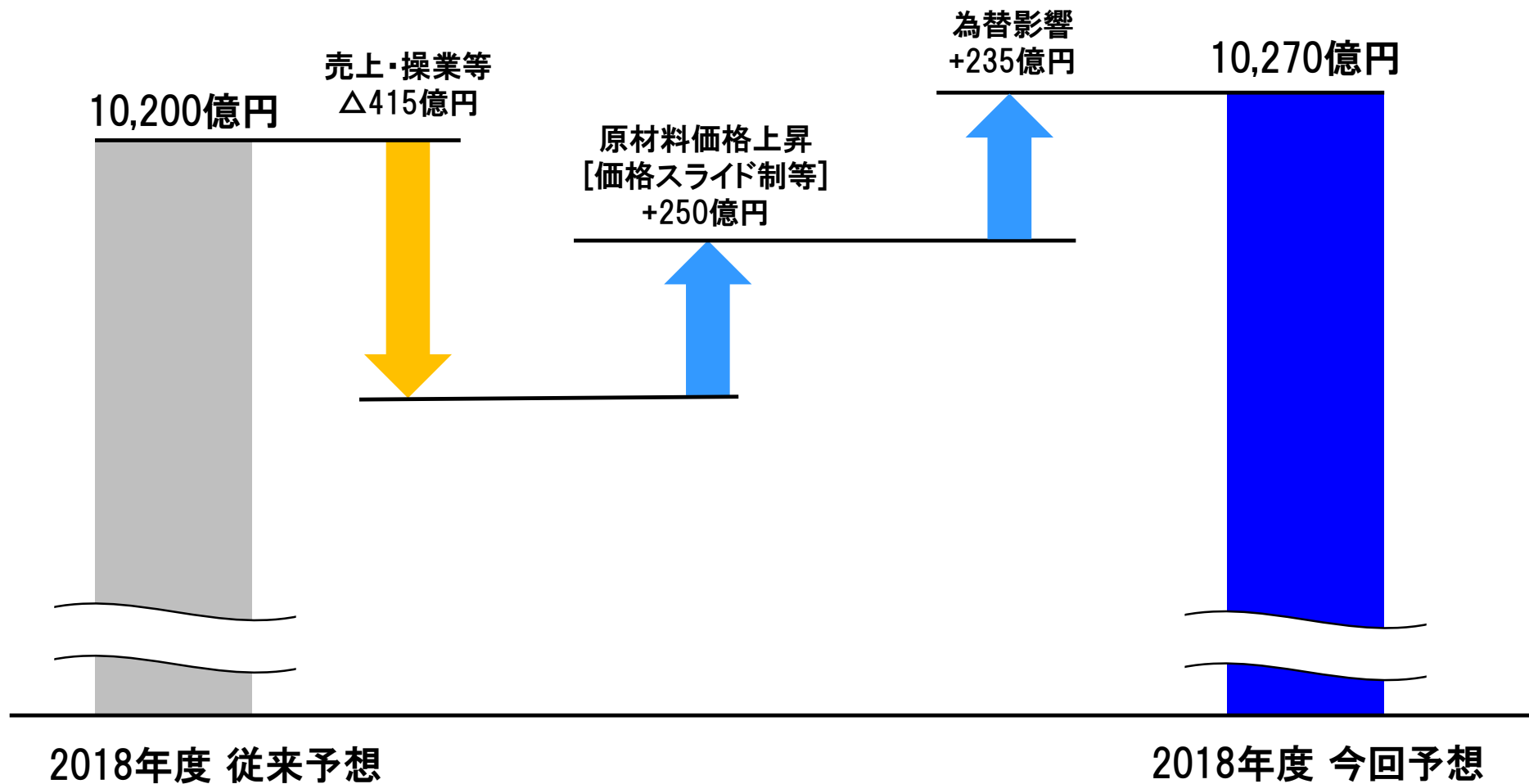
**価格是正、サーチャージ化の推進により売上収益は従来予想並みと見込むが、利益面では上記見通しにより減益の見込み**

### 3-3. セグメント別 売上収益 調整後営業利益予想

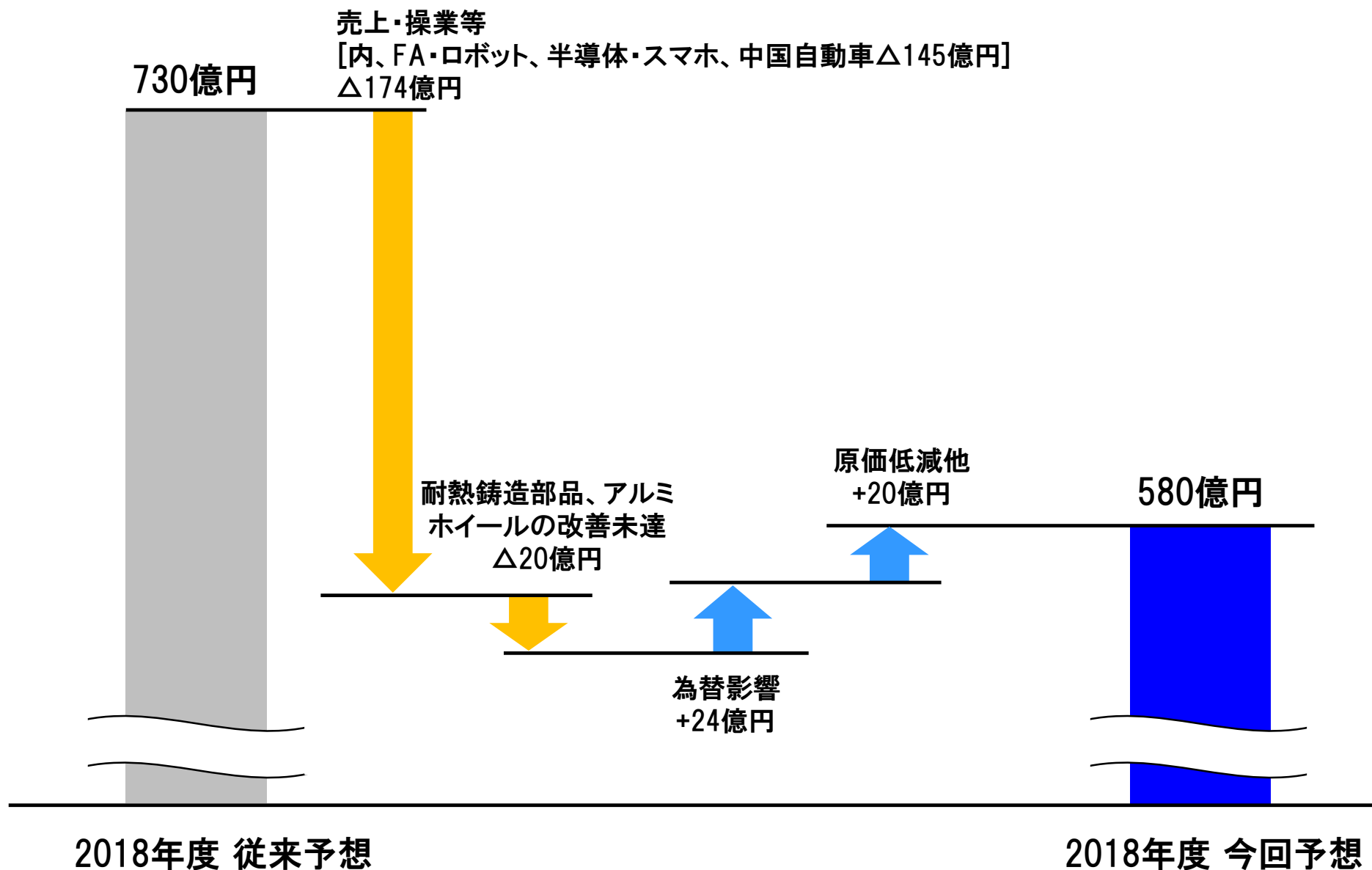
金額単位: 億円		2017年度	2018年度 従来予想	2018年度 今回予想	従来予想比
		1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	2Q累計実績1\$=110円 下期想定 1\$=105円	3Q累計実績1\$=111円 4Q想定 1\$=110円	
特殊鋼製品	売上収益	2,906	3,200	3,040	△5%
	調整後営業利益	279	310	260	△50
	利益率	9.6%	9.7%	8.6%	△1%
磁性材料	売上収益	1,061	1,150	1,100	△4%
	調整後営業利益	96	75	45	△30
	利益率	9.0%	6.5%	4.1%	△2%
素形材製品	売上収益	3,601	3,450	3,700	+7%
	調整後営業利益	118	170	125	△45
	利益率	3.3%	4.9%	3.4%	△2%
電線材料	売上収益	2,305	2,400	2,420	+1%
	調整後営業利益	149	170	145	△25
	利益率	6.5%	7.1%	6.0%	△1%
その他・調整額	売上収益	10	0	10	—
	調整後営業利益	9	5	5	—
合計	売上収益	9,883	10,200	10,270	+1%
	調整後営業利益	651	730	580	△150
	利益率	6.6%	7.2%	5.6%	△2%



### 3-4. 売上収益の増減要因(従来予想比)



### 3-5. 調整後営業利益の増減要因(従来予想比)



### 18年度4Q業績について(3Q→4Q増益要因)

- 季節要因: Waupaca社(3Q非需要期→4Q通常期)  
磁性材料(ロイヤリティ収入)
- 耐熱鋳造部品・アルミホイールの調整後営業損失減少
- 需要急減に対応した追加原価低減、費用節減施策実行

### 中長期を見据えた改善施策の計画推進

- 下方修正の要因となった製品群は中長期的に成長する注力製品、  
需要減退期に更なる強化を実行
  - ・大型投資効果刈取りのスピードアップ
  - ・IoT推進によるモノづくり力の強化
  - ・機会損失をミニマイズする生産体制の強化
- 注力製品を支える安定事業のキャッシュ創出力再強化
  - ・鋳物事業のあるべき姿の検討
  - ・経営スピードを上げる組織体制への変革
  - ・小規模グループ会社の経営体制再構築

# 参考データ(1)

金額単位: 億円	2017年度 1\$=111円 1€=130円 1元=16.8円	2017年度		2018年度		2018年度 従来予想 2Q累計実績1\$=110円 下期想定 1\$=105円	2018年度 今回予想 3Q累計実績1\$=111円 4Q想定 1\$=110円
		3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=133円 1元=17.1円	3Q累計 1\$=112円 1€=129円 1元=16.6円	3Q(10-12月) 1\$=113円 1€=129円 1元=16.3円	3Q累計 1\$=111円 1€=129円 1元=16.6円		
売上収益	9,883	2,507	7,331	2,565	7,755	10,200	10,270
調整後営業利益	651	156	478	97	428	730	580
調整後営業利益率	6.6%	6.2%	6.5%	3.8%	5.5%	7.2%	5.6%
その他の収益	54	15	36	10	87		
その他の費用	△ 242	△ 15	△ 90	△ 119	△ 169		
IFRS営業利益	463	156	424	△ 12	346		
EBIT	489	165	456	△ 12	370	670	505
税引前当期(四半期)利益	470	161	441	△ 19	353	645	480
親会社株主に帰属する当期(四半期)利益	422	152	348	△ 11	270	480	370
有利子負債	1,608	1,685	1,685	2,183	2,183		
設備投資額	918	203	592	270	714	1,000	1,000
減価償却費	461	118	345	131	379	550	515
研究開発費	177	45	125	46	139	210	190
D/Eレシオ(倍)	0.29	0.30	0.30	0.37	0.37	0.35	
基本的1株当たり当期(四半期)利益(円)	98.72	35.47	81.41	△2.65	63.16	112.26	86.54
1株当たり配当金(円)	26.0		13.0		17.0	34.0	34.0
1株当たり親会社株主持分(円)	1,316.1	1,323.3	1,323.3	1,362.9	1,362.9	1,408.5	
人員(人)	30,390	30,390	30,390	31,173	31,173	31,300	30,600
ROE*1	7.5%					8.3%	
ROA*2	4.0%					4.5%	
海外売上比率	56%	55%	56%	55%	56%	54%	

\*1 親会社株主持分当期利益率(ROE) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末親会社株主持分 × 100

\*2 資産合計当期利益率(ROA) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期末資産合計 × 100

## 主要製品 重量動向

製 品		2017年度				2018年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
特殊鋼製品	工具鋼	100	93	91	98	99	98	86
	CVTベルト材	100	112	118	128	108	114	121
	ピストンリング材	100	93	92	98	102	97	99
	有機EL関連部材	100	162	172	215	202	177	175
磁性材料	希土類磁石	100	101	105	98	99	99	92
素形材製品	鋳鉄製品	100	92	87	98	101	95	92
	耐熱鋳造部品 ハーキュナイト®	100	98	105	101	101	88	83
	アルミホイール(本数)	100	88	88	93	91	80	84

# (参考) マーケット分野別事業構造



# (参考) 日立金属 セグメント別事業内容(2017年10月1日～)

## ■日立金属の事業構造

事業セグメント	事業部門	主要製品
 特殊鋼製品	特殊鋼カンパニー	
	特殊鋼	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ](工具鋼、電子材料<ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料、電池用材料>、産業機器材料<自動車関連材料、削刃材および刃物材>、航空機・エネルギー関連材料、精密鑄造品)
	ロール	各種圧延用ロール、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	軟磁性部材	軟質磁性材料(アモルファス金属材料[Metglas®]、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット®]、ソフトフェライト)およびその応用品
 磁性材料	磁性材料カンパニー	
	マグネット・応用品	マグネット(希土類磁石[NEOMAX®]、フェライト磁石、その他各種磁石およびその応用品)、セラミックス製品
 素形材製品	素形材カンパニー	
	自動車用鑄物	自動車用鑄物(高級ダクタイル鑄鉄製品 [HNM®]、輸送機向け鑄鉄製品、排気系耐熱鑄造部品 [ハーキュナイト®])、アルミホイール [SCUBA®]、その他アルミニウム部品
	配管機器	設備配管機器(☺®印各種管継手・各種バルブ、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張タンク)
 電線材料	電線材料カンパニー	
	電線	産業用電線、機器用電線、電機材料、工業用ゴム
	機能品	ケーブル加工品、自動車用電装部品、ブレーキホース

※YSS、ヤスキハガネは日立金属の登録商標です。

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となる主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動